

焼津市浜当日虚空蔵山南岩壁の露頭

長 島 昭

地学散歩(73)

JR 焼津駅から県道416号線（旧国道150号線）を静岡に向い、瀬戸川を渡り（当日大橋）、川沿いに海岸に出て、当日の集落の海側を北進すると当日海水浴場があり、その北端に虚空蔵山の南岩壁がある。

この岩壁は海食崖でほとんど垂直に近く、波打ち際付近では枕状溶岩が積み重なっているのがよく分かる。露頭の下部は満潮の時や海が荒れた時に波によって洗われているので、積み重なった枕状溶岩どうしの中の堆積物が削り取られ、枕状溶岩が浮かび止がってその形が良く分かる。そして表面が磨かれて白い斑点（ソーダ沸石）が見え、割れ目が走っている。磨かれた枕状溶岩の周りには枕状溶岩の外側の層や沸石や方解石脈があり、断面の表われている枕状溶岩もある。放射状の割れ目と層状構造が確認できる。

この露頭の左下から右上にかけて延びる侵入岩脈（シル）がある。この岩脈と枕状溶岩との接触部をみると、急冷層があり、岩脈の膨大部には枕状溶岩の握り拳大の破片が取込まれていた。この岩脈はところどころで小断層で切られている。





1. 焼津市浜当目虚空蔵山南岩壁－観察に適した所は防波堤より左側。



2. 波に洗われ磨かれた枕状溶岩－沸石の斑点、放射状の割れ目が表面にまで達している。



3. 枕状溶岩の断面－枕状溶岩の層状構造と放射状割れ目と周囲の沸石や方解石の脈がある。



4. 进入岩脈（シル）－左下から右上に延びる褐色の帯。



5. 进入岩脈の部分拡大－岩脈の枕状溶岩との接触部には急冷層がみられ、岩脈中に枕状溶岩の破片が取り込まれている（破片上に5円硬貨がある）。